

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100056		
法人名	有限会社 サン・ショウ		
事業所名	サングループホーム横内		
所在地	青森市横内字若草13-2		
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①事務所専任の薬剤師による服薬管理及び相談 ②広大な畑で野菜を育て収穫する ③天然温泉を入浴に活用 ④天然木をふんだんに使用し、居心地のよい空間 ⑤AED設置 ⑥多方面の協力体制の充実(他グループホーム、町会、消防団、大学等) ⑦地域包括支援センターとの独自の協力体制</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの周辺には田畑が広がり、敷地内での家庭菜園や、庭では散歩をしながら四季折々の花を楽しむことができ、自然環境に恵まれている。 全職員は理念にある「明るく、仲良く、楽しく」を常に念頭に置いてサービスを提供しており、ホーム内は和やかで、笑顔が溢れていた。 また、災害時等の安全確保に関しても、周辺との協力体制が整備されており、AEDを設置し、広く活用を呼びかける等、地域貢献に関しても意欲的である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員は理念を共有し、毎日の生活の中に反映するように、お互いに声を掛け合いながら、協力している。	母体会社の理念を基に全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた、ホーム独自の理念を作成している。折に触れて声を掛け合ったり、トイレの目に付きやすい場所等に掲示し、職員間で理念の共有化を図っており、常に振り返りが出来るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の大学と協力し、中高生対象にした介護体験授業のお手伝い、または、実習生の受け入れを行っている。	通学時、学生のランニング中、散歩の際等、日頃から地域住民と声を掛け合っている。時には婦人部長に町内の盆踊り「横内音頭」の講師を依頼している他、町会長がいつでも気軽に立ち寄っており、地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の大学からの実習生や音楽ボランティアの受け入れと共に、認知症の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の取り組みの中で、消防団の方と一緒に避難訓練を開催する方向で調整中である。	町会長、民生委員、消防団、地域包括支援センター職員、家族、利用者等がメンバーとなり、運営推進会議を開催している。電話で開催を通知して参加を働きかけており、地域包括支援センターから感染症や虐待等に関して情報提供がある等、活発な意見交換が行われている。	運営推進会議の開催にあたっては、運営に係るタイムリーな課題等の検討をしたり、年度開催計画を提示する等して、2ヶ月に1回、定期的に開催することに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価、運営推進会議の結果を報告したり、職員も必要に応じて出向き、連携を図っている。	市担当課窓口へは随時訪問し、利用者の待機状況等の情報収集に努めており、必要に応じて電話やメールで連携を図っている。また、ホーム内にAEDを設置しており、地域での活用を呼びかけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員間の研修を通じ、演習したり、予防策について話し合いの機会を設けている。	職員は身体拘束をしない方針で研修を重ね、弊害についても理解している。外出傾向所見がある時は側に居て声掛けし、状況に応じて散歩やドライブ等で気分転換を図っており、見守りや付き添い等の支援に努めている。また、地域ぐるみで「自防捜」(町内見回り組織)が組織されており、無断外出等による事故防止への協力も得られる体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修、勉強会等を行い、注意、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修に参加し、理解を深める取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明チェックリストを作成し、相互にチェックして理解を深めるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションをとりやすい環境を整え、事務所内に苦情受付窓口、第三者による外部受付窓口を提示し、家族が意見の申し出をしやすい環境づくりを行っている。	日々、意識的に利用者や家族等の意見や要望を引き出す努力をしている。請求書送付時に写真や状況報告等を個別に作成したホーム便りを同封し、金銭管理はコピーを保管して原本とレシート類を家族に渡しており、積極的に家族等との対話が図られている。また、出された意見や要望等を、今後のより良いホーム運営等に活かせるような体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に対話の場を設け、全職員より意見・提案を求め、より良い環境づくりや人間関係づくりに取り組んでいる。	全体会議、申し送り時等、日頃から機会がある毎に話し合いが行われ、職員の意見を運営に反映させるように努めている。また、2ユニットで利用者、職員とも自由に行き来して交流が図られており、職員の異動による影響を最少にするよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に対話の場を設け、全職員より意見交換を求め、より良い環境づくりをするように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会には、全職員が参加出来る体制づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事参加、見学、研修等を通じて意見交換をしつつ、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度も事前に訪問し、本人の意向の聞き取りを行い、安心して暮らせるよう支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問し、家族とよく話し合い、情報提供をしていただき、それに伴い、一番望んでいる事の提示を出来るような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、聞き取りによる適切な状況判断により、必要な支援サービスが受けられるよう、関係機関との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩、家族の一員として、相互に信頼関係を結べるよう努力し、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、利用者の情報提供を通じて意志疎通を図り、また、職員の意思統一を進めながら、お互いに何でも言える関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の要望を基に、馴染みの人や場所に積極的に足を運んでもらうように声掛けをし、来苑していただくよう、環境づくりに努めている。	入居時のアセスメントや本人にインタビューする等、ケアを通じて馴染みの人や場所を把握している。自宅やショッピングセンター、お墓参り等へ出掛けたり、知人への手紙の宛名書きをしたり、遊びに来るように働きかける等、馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格を職員が把握し、コミュニケーションを図りやすい雰囲気づくりとなるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族と普段からコミュニケーションを図り、サービス終了後も電話連絡、訪問等により、相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との対話を密にし、思いや希望を把握出来るように対応している。	日頃の会話の中でも「おもしろくない」「かちやくちゃね」等の表現に着目して記録し、家族等と連絡を図りながら、利用者の視点に立った思いや意向の把握がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係機関からの情報を基に、利用者との対話をしながら確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動パターンを把握し、心身状態を観察しながら、変化に応じて適切な助言や支援を進めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向をより理解するために、コミュニケーション等で知り得た小さな情報・変化でもケアプランに反映させて、利用者がより快適な生活を送れるように作成している。	日頃のコミュニケーション等で知り得た些細な情報や変化等、全職員で気づきや意見、アイデアを出し合い、介護計画に反映させるように努めており、定期的な見直しの他、必要に応じて随時の見直しを行い、利用者がより快適な生活が出来るように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録紙は、身体、精神、病気等により、個々に違う様式となっており、情報、変化にすぐ対応出来るようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	糖尿病の利用者を積極的に受け入れ、インスリン管理、施行を行っている。それに伴い、薬についての勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、町内会員として、様々な情報交換や交流を通じ、資源を活用し、楽しめるように対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を基に、会社の特性を活かした医療関係との連携を大切に、急変時にも家族への素早い対応をしている。	入居前の受療状況を把握している他、母体会社の特性を活かした受診支援を行っており、医療機関やホームの看護師、家族で情報交換出来るよう、了解を得た上で連携を図っている。また、受診結果は家族等との共有が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを基に状態観察を行い、異常の早期発見に努め、医療関係者との情報交換や相談を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、家族や関係者と定期的に、または状況により随時話し合いを行い、早期退院に向けて連携を図り、関係者との情報交換や相談を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には対応していない。	重度化、終末期には対応しない旨、ホームの方針を利用者や家族等に説明し、理解を得ている。急変や入院等、医師から指示が出た時は随時話し合い、意思統一を図っている。また、急変時対応のために、ホーム内にAEDを設置しており、人形を使う等して操作方法の訓練をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、対応している。グループホーム内にもAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内に非常食、水分を備蓄し、町内において自防捜(町内見回り組織)の協力隊員となり、町民が一体となる協力体制を整えている。	昼夜それぞれを想定した避難訓練を行っている他、運営推進会議での提案を基に、消防、町会、自防捜の協力を得た避難訓練を実施予定である。防火扉の自動制御機等の防災設備は定期的に業者による点検がなされている他、災害時の備蓄は消費期限が一目でわかるよう一覧表にて掲示し、適切な管理をしている。また、自家発電機も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に対話を持ちながら、個々の人格尊重が行えるよう対応している。	利用者の立場になって声掛けをしており、物事に応じて「一人ですか?」「お手伝いしますか?」等と利用者との対話をしながら、支援をしている。個別ファイルは利用者名が付されておらず、色名で識別する等の工夫をしながら、個人情報の取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを聞きながら、発言や意志表示が出来る環境づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしく自由に過ごせる時間等を考慮し、快適な生活を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院があり、自発的に出掛けることが出来る。また、施設内にも出張美容院が来苑している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や家族から聞いて好みを把握し、献立に取り入れている。利用者の状況に合わせて食事の準備や片づけを一緒に行い、また、職員も利用者と一緒に食事をしている。	利用者一人ひとりの好み等を把握しており、苦手なものには代替食を提供している。利用者の状況に応じて、下ごしらえや後片付け等を職員と一緒にっており、職員も一緒に食事を摂り、楽しく食事時間を過ごしている。また、適切な声掛けでさり気ないサポートが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録に水分・食事量を記録し、全職員が把握出来るようになっており、それに基づいて声掛けを行い、栄養、水分量のコントロールが出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、入床時、毎食後に声掛けや見守りを行い、うがい、歯磨き、マウスウォッシュを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時、随時の排泄支援、誘導、声掛け、見守りの徹底を図り、排泄時の清潔保持の支援や状況に応じて病院への受診対応を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを記録しており、定時誘導を行っている。朝夕の申し送り時、「もう少し早目の誘導を」等と随時検討し、リハビリパンツが取れた利用者がある等、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の運動、水分、食事量、排便リズムをチェックし、スムーズな排便を促し、適切な支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	職員は利用者の入浴習慣を把握しており、意向に合わせた支援をしている。また、当ホームは天然温泉で、いつでも入浴可能な体制である。	ホームには天然温泉が引かれており、週2回以上の入浴を基本としている他、適宜入浴が出来る体制を整えている。また、1対1の対応にて、利用者の好みに合わせ、尚且つ安全な入浴支援を心掛けている。入浴を拒否する場合には、時間をかえて声掛けする等の工夫をしながら対応しており、無理には勧めていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体力を考慮し、適度な運動後に休憩を取るよう支援しており、不眠時等には対話したり、一緒に行動して入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による服薬指導、管理が徹底されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握し、ボウリング、ルームランナー、レクリエーション等、それぞれの楽しみを支援し、また、参加を促す働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物等、日常的な外出の機会を設けている他、観光、町会行事への参加等を行っている。外出時は移動距離や利用者の身体状況に配慮し、その日に合った支援を提供している。	ホームで計画している外出行事の他、日頃の会話の中からも利用者の意向を把握し、随時、道の駅や墓参り、自宅前を通る等、利用者が満足出来るような支援に努めている。また、散歩や買い物等、日常的に外出する機会を設け、町内行事等へも積極的に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動パン屋さんが来苑し、好みのパンを購入していただけるよう、見守りや声掛けをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、電話や手紙の対応が出来る環境づくりを行い、利用者も何度となく電話希望をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者自身の作品を季節毎に作成していただき、フローアールや居室に飾っている。温度、湿度を確認し、居心地良い温度調整を心掛けている。	調度品は家庭的で、職員の付き添いで利用出来るルームランナーやマッサージチェアもある。ユニットによって木調の温かさや白壁の明るさが心地よく、全居室に温・湿計を設置している他、共用空間では24時間加湿器が稼働し、快適な空間となるよう調整している。また、松ぼっくりの手作り人形やマルメロ等、季節感を取り入れた飾り付けもされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアールの中で一人で過ごせる空間を作ったり、中央フローアールに食卓テーブルを配置し、会話をしやすいような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者愛用のベット、ソファ、家具等を持ち込み、生活をしていただいている。	ダンス、鏡台、ソファ、チェスト、遺影、テレビ、ミニテーブル等、思い思いの馴染みの物が持ち込まれている。また、一人ひとりに合った居室となっており、コルクボードには写真や作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に利用者がわかりやすい標識やぬいぐるみ等を配置している。		